

(うんしゅうみかん)

JAS 農薬及び耕種を組み合わせた有機栽培技術の確立

1 目的

温州みかんを有機栽培に準拠した管理を行い、病害虫の発生状況や果実品質について慣行栽培との比較を行い、有機栽培技術確立の基礎資料とする。

2 実施期間

平成 30 年 4 月 1 日～30 年 12 月 31 日

3 実施場所

越智郡上島町岩城 3570

今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班岩城実証圃場

4 内容

供試品種 興津早生、宮川早生 10a

試験区

施肥：豚糞堆肥

下記の防除区 3 区及び慣行区において調査比較

防除区		防除内容	
1	JAS 農薬	6 / 4	IC ボルドー66D 80 倍
		6 / 2 8	IC ボルドー66D 100 倍 + クワノン 200 倍
		7 / 3 1	IC ボルドー66D 100 倍 + クワノン 200 倍
2	JAS 農薬	6 / 4	IC ボルドー66D 80 倍
		6 / 2 8	石灰硫黄合剤 80 倍 + クワノン 200 倍
3	耕種	5 月から	花卉落し、枯れ枝除去、枝抜き (随時)
4	慣行	5 / 1 6	ナリア WDG 2,000 倍 キラップ J 水和剤 4,000 倍
		6 / 1	ジマンダイセン水和剤 600 倍 アプロードエースフロアブル 1,000 倍 アビオン E 1,000 倍
		7 / 2	スプラサイド乳剤 40 1,000 倍 高度精製機械油乳剤 150 倍 コテツフロアブル 6,000 倍 ジマンダイセン 600 倍
		8 / 2	ハチハチフロアブル 2,000 倍 トランスフォームフロアブル 2,000 倍 エムダイファー水和剤 600 倍

		8 / 29	ダブルフェースフロアブル 2,000 倍 ジマンダイセン水和剤 600 倍
		9 / 18	セルバイン 300 倍
		10 / 12	セルバイン 300 倍 ナティーボフロアブル 1,500 倍 コロマイト水和剤 2,000 倍 ベンレート水和剤 4,000 倍 ベフラン液剤 25 2,000 倍

調査方法

黒点病発病度 : 11月12日に各区100個の果実の発病度を調査した。

発病度計算方法: 旧農水省果樹試験場興津支場発行「カンキツの各種調査方法」により、
果面における黒点病斑の分布面積を程度に応じ4段階に分け、計算式
により算出。

ハダニ発生数 : 10月17日に100葉中のハダニ生息数を調査した。

5 結果の概要

黒点病の果実における発病度の調査を行った結果、石灰硫黄合剤主体区の発病度がICボルドー主体区より高くなった。また無散布区が最も発病度が高くなった。慣行栽培の発病度は極めて低くなった。

ハダニについては、今年度は昨年度と同様、JAS農薬区で少発生が見られたが、数は少なかった(表)。

表 黒点病発病度とハダニ発生数

	11月12日	10月17日
	黒点病発病度	ハダニ発生数(/100葉)
① J A S 農薬(ICボルドー主体)	64.6	4
② J A S 農薬(石灰硫黄合剤主体)	75.9	2
③無散布	81.4	0
④慣行	9.7	0

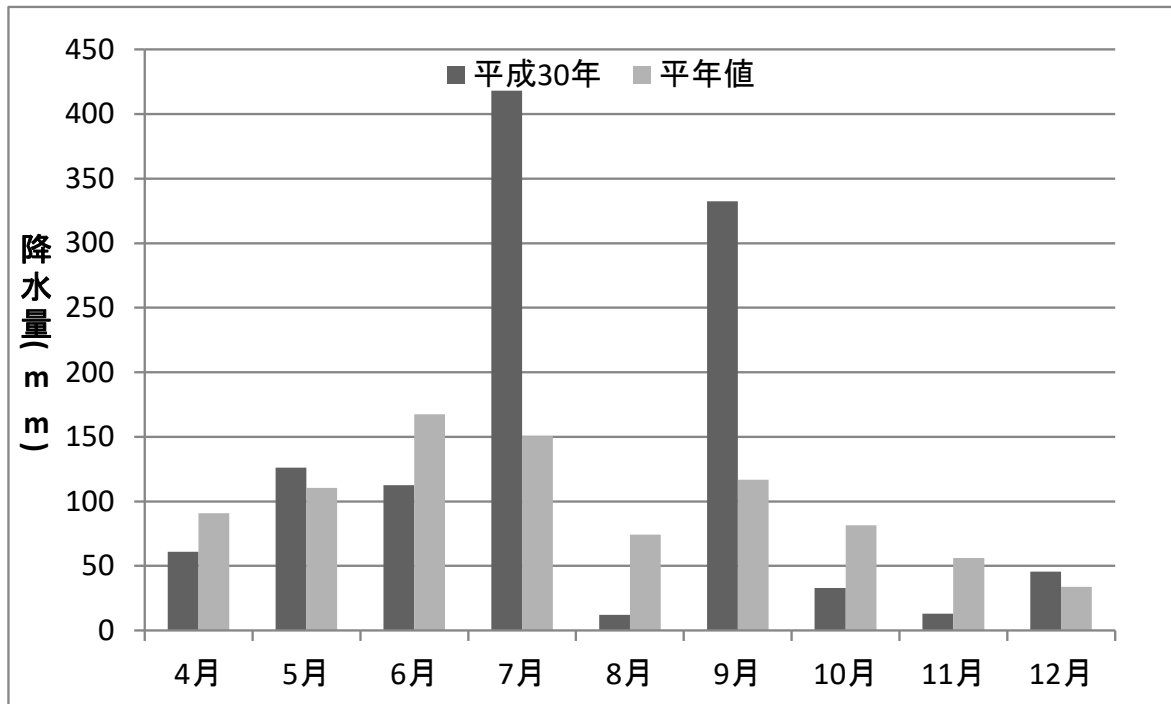


図 生口島の月ごとの雨量 (4月~12月)

6 考察

有機 JAS 農薬の体系は、今年産は慣行栽培より発病度が高く、効果が少なかった。これについては、7月と9月の降雨量が非常に多かった(図)ことにより、前期・後期の黒点病菌が増えたことによるものと考えられる。